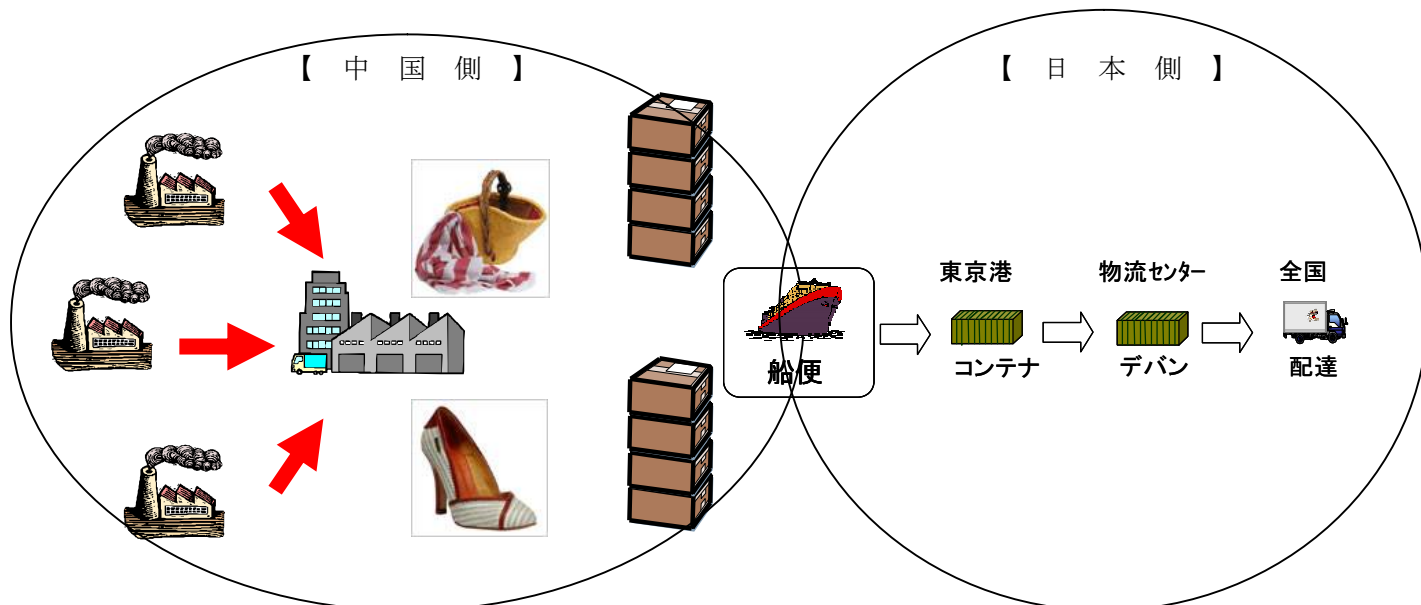


第九話 工場(中国)から店頭(日本全国)へ



最近のトレンドがこの図である。中国の異なった場所で生産される異なった商品を物流センターに集め、日本国内の店舗別に梱包し出荷するパターンである。

図の例は、東京港を利用するのが効率良い店舗向け商品を Container 化に入れて海上輸送し、東京港へ到着、物流センターでデバンされ、そのセンターには宅配業者がいて、デバン後即都内近郊に配送となる。

店舗からのオーダーは、中国側へ伝送され、コンピューターから日本国内向けの出荷伝票がプリントアウトされるのである。もちろん出荷伝票は荷札であり、Container に入れる前に各店舗別に梱包された箱に貼り付けられる。日本に到着してからの、検品→在庫数確認→在庫管理→出荷ピッキング→値札付け→包装→荷札のプリント→貼り付けまで、これらが全て中国側の安い労働力を利用して終わっているのである。日本側でも宅配便会社への移送はせず、デバン場所と宅配便会社が同一場所なので、デバン即配送可能となる。

以上